

令和2年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価（3月24日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の課題発見能力や問題解決能力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めるため組織的かつ持続的な授業改善に取り組みとともに、専門性の向上を図る教育に重点を置いた教育課程の編成をめざす。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>①主体的に学ぶ意欲の向上に向け、ICT利活用を研究主題とした組織的な授業改善を進めるとともに、専門性の向上を図る教育に重点を置いた教育課程を編成する。</p> <p>②生徒の主体的な学校行事の実施を支援する。</p>	<p>①日常的な授業見学、年2回の研究授業等により、ICTを利活用した組織的な授業改善を進める。また、新教育課程の編成のため、カリキュラム検討委員会を設置し、目的に即した教育課程を編成する。</p> <p>②生徒を中心とした体育祭、文化祭、球技大会等の学校行事を企画・実施する。</p>	<p>①授業評価の分析を活用した教科ごとの学習会を行ったか。年2回の研究授業・公開授業を実施できたか。ICT利活用による授業改善が行われたか。また、専門学科の特性に即した教育課程を編成できたか。</p> <p>②学校行事に係る生徒アンケートの満足度では、肯定的意見が80%を超えたか。</p>	<p>①年度当初の臨時休業中の自宅学習の補完や把握のため、ICTの利活用が進んだ。新しい生活様式の中で授業を再開し、11月に実施した校内研究授業では、全職員が授業見学及び研究協議に参加した。臨時休業中に習得したICTのノウハウを利活用した授業改善を組織的に進めることができた。</p> <p>カリキュラム検討委員会により、新教育課程の編成を進めた。</p> <p>②学校行事に係る生徒アンケートの満足度では文化祭85%、スポーツ大会81%であり、目標達成された。</p>	<p>①ICTを利活用した授業改善は進んだが、授業改善を一層進めるため日常的な授業見学を活性化させる必要がある。そのための組織的な取組の工夫を行いたい。</p> <p>カリキュラム検討委員会で編成した新教育課程の適切な運用の検討を進めたい。</p> <p>②今後も継続して新型コロナウイルス感染拡大防止に努めたい。今年度は体育祭を縮小してスポーツ大会を実施したが、次年度はさまざまな工夫を施し、多くの学校行事の実施に努めたい。</p>	<p>①ICT活用の現状はどのようなものか。教職員のICTスキルを高めることは必要である。</p> <p>互いの授業を見学しあうことは大切である。特に、他教科の授業参観は効果的である。</p> <p>②新型コロナウイルス感染拡大防止対策の中、行われた学校行事は貴重である。</p>	<p>①令和2年度入学に係る教育課程を編成することができた。今後は、カリキュラムの具体的な運用について、教職員の共通理解を進めたい。</p> <p>②学校文化祭は、生徒及び保護者のみの参加で開催することができた。また、体育祭及び球技大会は規模を縮小して、スポーツ大会として実施することができた。いずれも新しい生活様式の中で実施した。</p>	<p>①新教育課程の自由選択科目として位置付けた「デュアルシステム」のカリキュラムの研究を行い、生徒の学びと産業社会の連携がより一層進むよう努めたい。</p> <p>②新しい生活様式の中で、生徒の自発的な活動による学校行事が円滑に施されるよう支援に尽力したい。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①安心・安全な学校生活を送るための支援体制、指導体制を確立し、豊かな人間性や社会性を備えた人材を育成する。</p> <p>②専門学科の特性に由来する部活動を含め、教育活動における部活動の取組を支援する。</p>	<p>①生徒の様々な状況に応じた組織的な支援と生活指導を行い、社会人としてのルール・マナーの定着を図る。</p> <p>②生徒の学校生活の充実を図るため、生徒の自発的な部活動の取組を支援する。</p>	<p>①生徒の困り感を見逃さず組織的な支援を行うとともに、身だしなみ指導と交通安全教育の充実を図る。</p> <p>②生徒の部活動加入率を維持する、かつ加入率の向上を図る。</p>	<p>①生徒の情報を共有し円滑な支援ができたか。また、身だしなみや交通安全のルール・マナーを徹底できたか。</p> <p>②生徒の部活動加入率が維持できたか、かつ加入率の向上が図られたか。</p>	<p>①生徒の状況に応じた組織的な支援を行うことができた。定期的な身だしなみ指導を行うとともに、道路事情等周辺地域の環境変化に対応した交通安全教育を行い、社会人としてのマナー向上を図ることができた。</p> <p>②生徒の部活動加入率は昨年度50.3%であったが、今年度は48.1%となり維持かつ向上は図られなかった。</p>	<p>①引き続き、身だしなみの指導を行っていくとともに、隣地病院の開院による道路事情やバス停設置等の環境変化に対応した交通安全のために、地域・住民とさらなる連携を図って、生徒のマナーがさらに向上するよう努めていきたい。</p> <p>②部活動オリエンテーションの実施をはじめ部活動の取組の周知広報に努めたい。</p>	<p>①生徒の登下校時のバス乗車マナーは大変良い、と評価できる。生徒の近隣地域における自転車乗車マナーについても気になるところはない。</p> <p>相原高等学校の生徒の評判は良い。</p>	<p>①本校が新校地に移転して2年が経過し、生徒の交通安全を遵守する態度に向上の傾向がみられる。本年度は、終業式や始業式の際にICTを活用して、通学路の交通状況を確認することができた。</p>	<p>①学校周辺の自転車通学に係る「地域安全マップ（ハザードマップ）」を作成し、生徒の交通安全指導に資するよう努める。</p> <p>②新しい生活様式の中で生徒の学校生活が充実するよう、生徒の部活動を支援する。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	夢と活力ある産業人材の育成に向けて、専門高等学校の特性を生かし基礎的な知識や技能を体得して、社会的・職業的に自立する人物の育成を図る。	①農商併置校としての特性を生かし、インターンシップや農業体験を通じて体得した知識や技能を将来の進路に活かすことができる。 ②学年に応じたガイダンスを計画的に行い入試や就職に見合った基礎学力やマナーの定着を図る。	①本校の特性や生徒のキャリアデザインに即して、インターンシップ先の新規開拓に力を入れる。 ②ガイダンスや出前授業等を幅広い分野で体験することで視野を広げるとともに、挨拶やマナーの大切さを体得する。	①就職希望者はインターンシップに参加することができたか。また、農業体験等に参加することで自己の進路選択等に有効であったか。 ②自分の専門科目やそれ以外の科目の知識や技能を身につけることができたか。また、挨拶などのマナーが身についたか。	①本年度のインターンシップは、新型コロナウイルスによる生徒の感染防止を考え、生徒の参加はすべて見送りとした。インターンシップへの参加を出願の条件の一つとして上級学校もあるもので、生徒の参加の方策を探りたい。 ②ガイダンスは、会場や座席などに工夫を施して密を避ける対策を講じて、各学年で実施することができた。	①真摯に将来に向き合う生徒にとって、特に医療・看護系、保育・福祉系の進路を考え、希望する場合は、インターンシップに参加し、自分の適性を試してみることが大切である。来年度はインターンシップが実施できるよう検討したい。 ②ガイダンスを実施することにより、生徒はよく深く進路を考えるきっかけとなる。効果あるガイダンスを実施できるように努めたい。	①高卒就職希望者の内定率は相模原市が81.7%(1月現在)であるのに対して、相原高等学校は、希望者全員が内定を得ている、とのことで大変よい。今後も支援・指導をお願いしたい。 ②新しい生活様式の中でマスク使用が日常となったが、生徒の挨拶・マナーの重要性に変わりはない。	②新型コロナウイルス感染拡大防止の取組として、上級学校への入学試験にオンライン面接の実施が散見された。初めての試みで試行錯誤のうえ、校内環境を工夫して対応することができた。	①新規インターンシップ先の充実に尽力する。 ②生徒の就職希望者と進学志望者の双方の進路実現を側面から支援するよう全職員のサポート体制を充実させたい。特に、就職希望者については、民間企業だけでなく公務員への進路支援についても充実させたい。
4	地域等との協働	①地域に根ざした様々な産業との連携を重視した教育に取り組むとともに、産業社会に役立つ産業社会の発展に寄与する人材を育む。 ②地域に信頼される学校づくりを推進する。	①学科や校内外の枠を超え、様々な連携事業に関わることで専門性を高める教育を推進する。 ②本校の魅力をPRできる機会をより多く持つ。	①直売所や各種連携事業の新規立ち上げ、校内・校外問わず交流の場を多く持つ環境整備を行う。 ②コンテンツ管理システム(CMS)移行により、より多くの情報を迅速に学校ホームページで発信できるようにする。	①直売所や連携事業の新規立ち上げを行えたか。あるいは、新規立ち上げ事業を構想することができたか。 ②コンテンツ管理システム(CMS)移行により、本校の情報を週当たり1回程度、発信することができたか。	①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、生徒による実習に制限があったため、新規事業を立ち上げることができなかった。 ②CMSによる週1回程度の発信はできなかったものの、本校のPR動画を制作し、CMSにて掲載することにより、広く本校の魅力を中学生やその保護者に伝えることができた。	①新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、安全・安心な連携事業に取り組めるように努めるとともに、新規事業の企画に努めたい。 ②本校の魅力をさらに広く伝えていけるよう、見やすわかりやすいホームページ構成の検討を重ねていきたい。	①新型コロナウイルス感染症拡大防止による新しい生活様式だからこそ、新規事業の取組に挑むことが大切である。校内評価の課題・改善方策等を評価したい。 ②CMSを有効活用すべきである。学校の魅力を広く伝える工夫をお願いしたい。	①生徒の活動を伴う直売所の運営は、新型コロナウイルスの影響からほとんどできなかった。 ②学校ホームページを年度の中途からCMSに移行した。移行前は、頻繁に学校ホームページの更新を行ったが、不慣れのためか移行後が更新の頻度が減少した。	①隣接地に移転してきた病院は地域医療の拠点病院としての機能を果たしている。地域に開かれた学校として連携できる取組を模索していきたい。 ②本校の魅力と特色を、広く周知するために学校ホームページの充実を図り教育活動の動画や生徒の活動実績などの情報量を増やしたい。
5	学校管理 学校運営	①教員の働き方改革を推進するため、組織的な学校運営と校務の効率化を図るとともに、一層の事故防止に努める。 ②教育環境の整備や学校防災の取組により、生徒・保護者・地域との信頼関係を構築する。	①教員の働き方改革推進の観点から、各種視聴覚・情報関連の設備や機器の整備、機器の管理、利用法の徹底を図る。 ②防災備蓄品の整備や災害発生時に対応した防災教育を図るとともに、教育環境の整備等を行う。	①新たに設置・配備された各種視聴覚機材や情報機器の管理方法や利用法を策定し、周知することで教員の働き方改革を推進する。 ②防災備蓄品の更新や整備、防災訓練等を計画的に進めるとともに、清掃用具の充実、校内美化に努める。	①WiFi関連について、管理簿等を通じた機器の管理が行えたか。また、その利用法を周知するための研修を行えたか。 ②防災備蓄品の整備・更新が進められたか。防災訓練が計画的に行われたか。また、清掃用具の整備や校内美化が進められたか。	①ChromebookなどのICT機器を利用したオンラインでの職員打ち合わせや授業などを実施するために、効果的な研修を行うことができた。また、管理簿の利用とともに機器の管理を十分に行うことができた。 ②定期的な棚卸を行い、防災備蓄食料や毛布・マット、救急セットの購入更新を進めた。AED講習などの一部の防災訓練については規模を縮小し実施することができた。校内美化に関連して、新型コロナウイルス感染予防対策として施設内の殺菌消毒用具の整備を図った。	①特別教室にはアクセスポイントが設置されるが、ホームルーム教室への設置の課題が残る。 ②防災備蓄品については引き続き、整備更新をする必要がある。コロナ禍における防災訓練の方法を模索するとともに、地域との協議を進めたい。 校内清掃用具や衛生用品について購入や更新を行い、安全・安心な教育環境の整備を進める。	②10年前の東日本大震災では、大きな災害と同時に、多くの帰宅困難者がいた。地域の中で災害時に学校の果たす役割は大きい。	①新型コロナウイルス感染防止に係る新しい生活様式による授業では、ICT機器の利活用は欠かせない。一部の教職員のスキル向上を認めることができたが、組織的な教職員の研修の実施が課題と言える。	①新しい生活様式における授業の有り方を模索するとともに、すべての教職員のICTスキルの向上のため、より一層の研修の機会を増やす。 ②校内の防災事業の充実を図るとともに、地域の拠点病院として機能する隣接病院との連携を深める。